

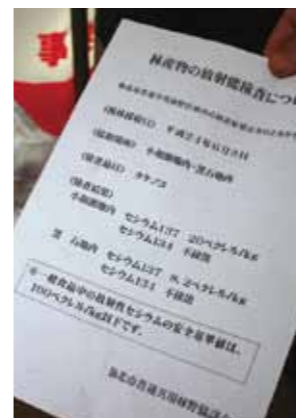


宝仙湖を越え、さらに深い山へ入って行きます。

ネマガリダケ採りは 魔性の魅力

毎年6月になると私たちを楽しませてくれる「生保内タケノコ」ことネマガリタケ。さつくりとした歯応えと香り、旨味と甘味が独特の持ち味で、初夏のごちそうです。

難所で採れると聞きますが、どんなところでどの位採れるのか？ そんな好奇心と、できたら自分も採ってみたいと欲望を抱いて、玉川ダム奥の生保内タケノコのメッカへ行ってみました。



今年はタケノコの放射能検査も行われています。仙北市のタケノコは安全基準値内でした。

言ったのさは驚いた。クマもおにぎりの味覚えてしまったから寄って来てららららでねが？ ラジオ鳴らしても来る。クマもタケノコ好きだし、タケノコ採りはクマとの追いかっこだ。遭難も多くて今年もまだ見つからねえ人いるんし。クマに寄って来られる？この話を聞き、自分で採りたいという欲望は瞬時に消えました。遭難や事故の可能性を承知でも行きたいタケノコ採りには、魔性の魅力があるのでは。

そのとき、満面に笑みをたたえた男性が下りてきました。リュックにはあふれんばかりのタケノコ！赤い皮にくるまり、まるまると太っています。30キロ以上ありそうな収穫です。「通称五百円玉って呼ばれる、もつとすこいものも出てくるよ、めったにお目にかかれないものだ」。獲物を狙うハンターのまなざしにタケノコ採りの魔性が少しわかった気がしました。

事故・遭難 警戒看板がずらり



幻の五百円玉大も
なんとずらり...



入林採取料金徴収所は小和瀬と黒石の2ヵ所。遭難防止の呼びかけなどもしています。タケノコを採る人はほとんどが日の出と共に採り始め、昼頃に下山。下山時に入林採取料金を支払います。

